

平成30年7月豪雨災害の復旧に向けて

7月に発災した豪雨災害では山県市内の道路・河川・林道・山林等でも被害が発生し、多くの皆様にご迷惑とご心配をおかけしました。

特に県道神崎高富線の神崎地内の崩落に関しては通行が遮断され、日常生活にも大きな影響を与えてしまいました。



土砂災害警戒情報が発表されてから避難勧告の伝達や避難所の開設場所、時間帯など災害対応にはまだまだ課題があります。

現場に伺い直接、被災された方々の声を聞く事により、これまで届いていない被災状況や新たな課題が認識できました。

—— 市民の皆様の心の不安に向き合い続けたい ——

岐阜県では今回の豪雨被害の特徴を踏まえ、県民の皆様の命を守るため大きく3テーマについて検証を行い、対策を講じていきます。

1 実効性のある 避難・情報提供のあり方

- ・大雨特別警報など防災気象情報発表時の対応
- ・風水害タイムラインの検証
- ・避難情報発令基準の検証
- ・高齢者、障がい者等災害時配慮者等への対応
- ・多様な情報伝達手段の確保

2 災害応急・ 復旧対策

- ・孤立集落への対応
- ・断水時の対応
- ・公共交通不通の際の対応
- ・災害ボランティアの受入対策

3 事前の 防災対策

- ・これまでの防災対策とその効果
- ・土砂災害防止対策
- ・ため池決壊・流出対策

※検証項目は全15項目あり、一部を記載しています。(H30年8月20日現在)

この度の豪雨災害に際し被害に昼夜を問わず限られた人員の中でご対応に当たって頂きました、地域の方々や消防団の方々、県・市職員の方々、防災協定を結んで頂いている企業の方々に心から感謝を申し上げます。

県政を与る立場として責任を持って災害対応に努めてまいります。

活動
報告書

No.16

We have potentials

挑戦

せずして、

未来が開けますか。

Potential
安心も自立も挑戦の先にある

《第11回 みやま川祭り》

岐阜県議会議員 Onda Yoshiyuki

恩田よしゆき

岐阜県議会議員 恩田よしゆき事務所
〒501-2104 岐阜県山県市東深瀬846-1
TEL0581-32-9597 FAX0581-32-9598

HP 恩田よしゆき 検索



岐阜県議会議員 恩田よしゆき後援会 討議資料 No.16

岐阜県議会定例会

一般質問

歯科衛生と生活習慣について

子どもの健康格差の現状と課題

本県ではこれまでの歯と口腔の健康づくりの取組みにより全国的にも虫歯の少ない県となりました。

しかし、平成29年12月に実施された子どもの口腔内の健康状態に関する実態調査を実施した結果では、歯科検診で虫歯などが見つかった児童・生徒の内、小学生では約35%、中学生では56%がその後、治療を受けていない調査結果が発表されました。

又、調査結果からは歯の大半が虫歯で食事も困難な『口腔崩壊状態』の子どもが一定数いる事がうかがえ、『子どもの健康格差が広がっている』現状も見受けられる結果でありました。

県内の全市町村では義務教育期間中は窓口負担なしで歯科治療を受けられる事から、未受診の理由は経済的な問題よりも家庭環境等の『養育力の格差』が広がっているとも指摘がなされています。

そこで、家庭環境等で課題を抱え自身の努力では解決が困難な児童・生徒に、これまで以上に寄り添い、どのような環境で育つ子どもたちでも最低限安心したサービスが受けられる環境を整えるために歯科衛生の重要性や相談体制の強化について提案をさせて頂きました。

子どもたちに寄り添う支援に大きく前進

(1) 児童生徒や保護者への歯科衛生の重要性の更なる啓発について

質問

岐阜県保険医協会の調査や教育委員会による各校への聞き取り調査等から、口腔疾患の課題は勿論の事ですが、子どもたちの背景には複雑な課題があります。

治療をしない、もしくは治療ができない。自身の努力では改善が困難な家庭等での課題を有する子どもたちに寄り添い、家庭環境も含めて歯磨き指導や、治療手段等の周知も必要となります。

今後、歯科衛生の重要性について、これまで以上にどの様に伝え改善していくべきか、教育長のご所見をお伺いします。

答弁

教育長

今年度の定期検診で、虫歯が10本以上、又は歯根しか残っていない歯が2本以上あった重度の口腔疾患の児童生徒は、小学生で325人、中学生は56人でした。

学校においては、本人や保護者に粘り強く受診を勧める事に加え、学校歯科医や歯科衛生士から直接本人に働きかける事や、保護者が日本語を十分に理解できない場合は、外国語で説明する事など、歯科治療につなげた例があります。

県教育委員会としましては、養護教諭等の研修会において、こうした事例を周知すると共に、未治療の児童生徒や保護者に対して、放置すると全身への健康被害を招く恐れがある事など、歯科治療の必要性を示した指導資料等を作成しそれらを活用して、家庭の状況に応じて繰り返し丁寧に対応するよう指導してまいります。

(2) 歯と口腔の健康づくりのための今後の取組みについて

質問

学校歯科検診で虫歯と診断された後にも治療を実施しない、もしくは治療できない子どもたちが一定数いるのが実態です。今後、より虫歯にならない環境を整えていくために、これまで以上に歯と口腔の健康づくりの取組みが重要となります。

そこで、虫歯への予防効果も高く安全性も科学的、学術的にも確認されているフッ化物洗口等を、より普及させていくと共に小学校高学年から広まりつつあります歯周病対策の取組みについて健康福祉部長にご所見をお尋ね致します。

答弁

健康福祉部長

県の12歳児の一人平均虫歯の数は0.5本と全国で2番目に少なくなっておりますが、市郡別には約7倍の差があります。

又、歯周病のうち、歯肉に炎症のある児童・生徒数は減少傾向にあるものの、中学・高校では全国平均に比べてわずかに多い事から、きめ細かな対応が求められております。

県では、子どもの虫歯予防対策として、フッ化物洗口を推進しており、学校等へのフッ化物製剤の無償提供を行うなどにより、現在35市町村でフッ化物洗口が実施されております。一方、子どもの歯周病対策として15市町の小中学校で歯みがき指導が行われております。

今年度から実施する第3期岐阜県歯と口腔の健康づくり計画において、フッ化物洗口や歯みがき指導の普及に向けた目標を掲げると共に、これらの目標達成に向け、県歯科医師会や県歯科衛生士会と協力し、県口腔保健支援センターの歯科医師等が個別に市町村に出向くなど、市町村支援を充実してまいります。

※『歯科衛生と生活習慣について』は平成30年3月に質問した内容です。
現在、第3期岐阜県歯と口腔の健康づくり計画は完成し各種取組みはスタートしています。